

●女性による経済活動の創造について

◆8番（山下いづみ 議員）私はさきに通告してあります女性による経済活動の創造についてお聞きします。

ことし9月19日から21日までの3日間、第15回APEC女性リーダーズネットワーク（WLN）会合が東京で開催されました。APECの関連会合の一つである女性リーダーズネットワーク会合は、APECに参加する21エコノミーの産業界、学界、行政、民間団体などの女性リーダーから成るネットワークです。男女共同参画社会の実現のために女性たちの経済活動の発展に寄与することを目的として、毎年APEC議長が持ち回りで開催しています。ことし議長国でありました日本、主催内閣府男女共同参画局が力を入れたということは言うまでもありません。今回は産業界、政府、学界、市民社会及び先住民の男女500人以上が集まり、テーマ「女性と経済」に焦点を当てた「女性による新たな経済活動の創造-人・自然・文化を活かす-」の議論がされました。

現在、富士市では第3次富士市男女共同参画プラン策定に取りかかっています。案ではありますが、プランの中には女性の就労とチャレンジ支援も施策の方向として掲げています。今回の会合に参加し、日本や他国でキャリアを積む多くの女性たちの話、また、男性の話をも身近で聞き、私たちのまち、男女共同参画宣言都市富士市が女性の経済活動に対して行える支援は多くあると思いました。経済活性化の観点からも、今回の会合で出された女性による経済活動の提言は、富士市においても十分に考慮して対応していくことがよいと考えます。主な提言の中から以下の3点について、富士市ではどのように考えるのかお伺いします。

1、女性のキャリア構築について、能力開発、教育、訓練を継続的に提供する。2、起業の実現について、融資、無担保融資などやメンター制度の導入。3、新たな経済機会の創出について、ネットワークの構築、市内、市外、国外への発信。また、これらを支えることとして、子どもと家族の総合支援コーナーの設置についてお聞きし、1回目の質問といたします。

○議長（小長井義正 議員） 市長。

〔市長 鈴木 尚君 登壇〕

◎市長（鈴木尚 君） 山下議員のご質問にお答えいたします。

初めに、女性のキャリア構築について、能力開発、教育、訓練を継続的に提供についてであります。まず学校でのキャリア教育につきましては、児童生徒1人1人の勤労観、職業観をはぐくむことにより、社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを目的として、発達段階に応じた取り組みを行っております。また、本年6月、市内では初の試みとなりますが、男女共同参画地区推進員が中心となり、須津中学校の2年生全生徒を対象に、キャリア教育の一環として男女共同参画の視点から将来の職業を考える授業を実施いたしました。現在、策定を進めている第3次富士市男女共同参画プランにおいても、将来の進路選択を行う時期に男女共同参画についての学習機会が必要であると考えており、性別を理由に将来の夢をあきらめたり選択肢を狭めてしまうことのないよう事業を実施してまいります。

次に、働く年代の女性への能力開発による女性の再就職や起業などの支援についてであ

りますが、昨年実施した富士市男女共同参画に関する調査では、女性の就労について、子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよいと答えた人が最も多くなっており、出産・子育て期の有業率は低い状況にあります。しかし、1度仕事をやめた女性は思うように再就職できていないのが現状であり、出産、子育て等を理由に退職した女性が再就職を初めさまざまな活動に再び従事することができるよう、情報提供などによってスキルアップやチャレンジを支援していく必要があると考えております。

また、生活困難を抱える層は男女、年齢を問わず存在しますが、固定的な性別役割分担意識に基づく就労構造や男女間で賃金の格差があることなどから、女性は生活困難に陥りやすいことが推察されます。平成19年に実施の富士市男女共同参画に関する事業者調査でも、市内事業所の男女別の正規、非正規従業員の状況は、男性の9割が正規職員であるのに対し、女性は5割にとどまり、女性が経済的に自立することの難しさが伺えます。しかし、本市で行う女性の再就職を目的とした講座、再就職セミナーやパソコン講座等は短期的な事業が多く、今後はより個人の能力アップにつながるよう市内関係機関との連携を強化し、議員ご指摘のような女性のキャリア構築を進めてまいりたいと考えております。策定中の第3次男女共同参画プランでも、女性の有業率を現状の61.4%から、10年後には70%とすることを目標に、女性の就労とチャレンジ支援を施策の方向の1つとし、就労支援のための講座の開催、労働環境整備、育児介護休業制度の普及啓発などの事業を継続的に進めてまいります。

次に、2点目の起業の実現について、融資、無担保融資などやメンター制度の導入についてであります。本市における起業化への支援につきましては、富士市工業振興ビジョンに基づき、起業のきっかけづくりとなる起業家支援セミナーやステップアップセミナーを開催するとともに、起業を志す方の相談に対応するなどの支援をしております。特に、女性向けの事業といたしましては、平成19年度より市内における女性の起業、創業の機運を促し、起業を中心として地域産業の活性化を図ることを目的に、起業の初歩を学ぶ女性向け起業塾ふじ好奇心大学を開催し、平成21年までの14講座に延べ353人の方にご参加をいただいております。本年度は、富士市産業支援センターf-Bizの起業家支援セミナーと統合した中で3日間開催し、29名が受講されており、そのうち15名が女性であり、女性の起業意欲が旺盛であったと伺っております。

さて、起業に当たっての融資についてであります。現在、静岡県において創業希望者や創業後5年以内の方を対象にした開業パワーアップ支援資金が創設されており、福祉関連サービスの創業や女性、高齢者などの方が利用される場合は、据え置き期間が1年間から3年間に延長される優遇措置が受けられるようになっております。また、政府系金融機関であります日本政策金融公庫におきましても、新規開業資金のほか、女性または30歳未満、55歳以上の方に特化した女性、若者、シニア起業家資金などの融資制度が設けられており、市民より開業資金に関する相談があった場合、これらの融資制度をご案内しているところであります。本市といたしましても、起業に対する支援は地域の活性化を図る上で重要な取り組みであると考えておりますので、起業に関する融資制度の創設につきまして、国、県等の融資制度の活用や他市の取り組み状況なども参考に検討してまいりたいと考えております。

次に、メンター制度の導入についてであります。女性のための世界銀行日本支部が女性起業家向けメンター紹介サービス事業を有料ではありますが実施しており、静岡県からも4名のメンターが登録をされております。これから起業を考えている方や起業して間も

ない方にとりまして、専門家や起業成功者からのアドバイスは貴重な情報源であり、起業の成功へのかぎとなるものではないかと考えております。このようなことから、f-Bizでは、本年度の起業家支援セミナーにおいて全国商工会議所女性会連合会の女性起業家大賞最優秀賞に選ばれるなど、県内で活躍されている女性起業家3名に講師を依頼し、成功した起業家の話に触れることができるよう努めているところであります。今後もf-Bizを起点として、起業成功者や時代の先端を行く方々の話に触れる機会を創出するとともに、さまざまなビジネス情報を提供し、起業を志す方や起業して間もない方の支援を引き続き実施してまいりたいと考えております。

次に、3点目の新たな経済機会の創出について、ネットワークの構築、市内、市外、国外の発信についてであります。本市においては、フィランセ内に男女共同参画センターを設置しており、女性のための相談を実施しているほか、だれもが自由に利用できる情報コーナーや登録団体が利用することのできる研修室、連絡室等があり、男女共同参画を進める団体や個人が学びを深め、ネットワーク化を図るための拠点施設となっております。さらに、全国的に見ると、男女共同参画センターや関係機関の連携により、女性の積極的な経済参加を促すためのネットワークの構築に向けた取り組みが行われている先進的な事例が見受けられます。男女共同参画センター等の女性関連施設をつなぐネットワーク組織である全国女性会館協議会では、女性の経済的自立支援を目的とした経済的に困難な状況にある女性のためのパソコン講座事業のプログラムを開発し、実施するためのノウハウや教材の提供、運営スタッフの研修等を行っております。平成21年度末で、全国44の施設でこの制度を利用した女性の就労支援事業が実施されており、約3500人が受講しているということでもあります。これからの男女共同参画センターに求められている機能は、従来の啓発や交流のみならず、女性の貧困や再就職など、時代に即した具体的な課題を解決するというものになりつつあると認識しております。このため、男女共同参画都市宣言に際して登録していただいた協力事業所や商工会議所等、就労分野で男女共同参画を進める各種機関との連携や情報の共有化を推進するなど、女性の就労に関するネットワーク化を視野に入れた事業の展開についても、あわせて研究してまいりたいと考えております。

また、子どもと家族の総合支援コーナーの設置につきましては、女性が出産や子育てなどをしながら働き続けるためには、多様な働き方を可能にする環境の整備が重要であるとの観点からも他市の情報を収集し、関係機関、市民団体とも意見交換を行いながら、調査研究してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） それでは、また順を追って質問をしたいと思います。

まず、1点目の女性のキャリア構築についてですが、説明でもありましたように、いろいろと単発ではやっているということです。それに、市で十分にわかっているのが、では、これから女性が仕事をしようとしたときに、なかなか社会に向けてのブランクがある人が多いなということです。このときに、講座、セミナーをやっていますが、そういうことも踏まえて、どういうふうに講座の内容とか回数とかを決めて行っているのでしょうか。

○議長（小長井義正 議員） 市民部長。

◎市民部長（藁科靖 君） 先ほど市長の答弁にありました働きたい女性のための就労支援セミナーなんですけれども、これにつきましてはそれぞれ40名、パソコン講座としまして当初40名を対象に、子育て中のお母さん、転職希望の女性の方を対象に、フィランセを

使いまして行っております。その後、年度をまたぎまして、その中からさらに就労に役立つもう少し高度な部分でのパソコン講座という形で、定員を10名ずつA日程、B日程というような形で、それぞれ19年度、20年度にまたいでテスト的に行っております。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） その決め方を質問したんですけれども、例えば、いろいろ募集してみると、女性でもこういうふうに意欲があってやりたい人が多いなということをお先ほど市長も言っておりましたけれども、では、その人たちがどういうセミナーとか講座が欲しくて、力をつけたくてということをお先ほどどういうふうに酌んで、どういうふうにかかわり、セミナーを展開していくのでしょうか。

○議長（小長井義正 議員） 市民部長。

◎市民部長（藁科靖 君） 募集につきましては、広報等それらの中で、それ以前に先ほど説明の中にもございましたけれども、女性の再就職について希望があるけれども、それらについて応援ができる方法がないだろうかという形でこのような講座を設定しております。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） その内容なんですけれども、私も小さいお子さんを持っている方、お子さんが大きくなった方、いろんな女性の方にも実際にお話を聞きました。そのときに言っているのが、例えばセミナーに行っても、そのときには気持ちも盛り上がり、私にもできるという感覚があったけれども、実際に次はどうしていいのかわからない。だから、自分になるべく合ったようなセミナーを継続で受けたいということでした。それは個々にはそれぞれ要望があるとは思いますが、そういう富士市の女性の意見とかニーズを把握した上で形をつくっていただければもっとよくなると思います。内容的には、まずとにかく空白がある。私はどうしたらいいのか。資格があるけれども、それを生かせないまま、空白があるのでそういうことに関してちょっと練習も自分でしたい。そして、後、個々にフォローをしてほしい。こんなような意見を聞いていますので、ここで女性のキャリア構築と云ったら、まず土台、基礎のところからキャリアが積んでいけるまでの支援ということで、セミナーの内容、どういう回数、そしてどういうふうに次へつなげていっていいのかということをお先ほどまた調べていただきたいと思いますというふうに思います。

このことに関しては、他市の男女共同参画センターでいろいろと取り組みはしているんですけれども、では、こういうキャリア構築について必要なことはどうなのかと言ったときに、例えば長野市のほうですけれども、そこでセミナーを行うんですが、それプラス相談機能も持たせているんですよ。セミナーをやる前に女性が個々に自分の思いを話して対応してもらって、その相談機能とセミナーを共同で行っているというふうになっていきますので、そういうセミナーと相談機能ということをお先ほどあわせるような形というのはどういうふうにお考えですか。

○議長（小長井義正 議員） 市民部長。

◎市民部長（藁科靖 君） 就労にまで着実に結びつけていく、そういうことにつきましては、なかなか男女共同参画課だけでは難しい部分がございますので、就労の部門と協力しながら今後考えていきたいと思っております。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） ぜひ考えていただきたいと思います。

長野市の男女共同参画センターの担当の方に聞きましたら、いろんなタイプの女性の人がいるけれども、一番最初に必要なことは、とにかくその女性の意思とかをちゃんとしっかり確認して土台、基礎づくりをやっていくと形になっていけるということです。

そして、2点目の起業の実現についてですけれども、ここでは、まず最初に融資のことは、いろんなタイプが今あって、これからいろんなものも研究していくということですが、ここは無担保融資をしたらどうだと、そこまでは例を書いたんですけれども、これは日本ではないんですが、1つだけこれはすばらしいと思ったので紹介だけしたいと思います。

このAPECの女性リーダーズネットワーク会議に台湾の方が参加していました。それも80名です。ほとんどの人が起業された女性の方とそこの大臣、その方も女性でした。いろんな年齢がいましたが、この人たちは何でこんなに起業できるんだといったときに、お金の面、無担保の融資とこのメンター制度というところでした。これはただお金を—あなたは女性ですね、やる気がありますね、はい、ということではなくて、まず1番目の、最初のキャリア構築についての研修セミナーのところにもつながってくるんですが、そこの政府で決めたしっかりしたセミナーであるとか講座であるとか、そういうものをしっかりと習得し、それプラス精神的ですよ。やる気があって、あなたはその道筋をつけていけるのかということも総合的に教育をした中で、わかりました、では無担保融資でやりますというふうにしてやっていったわけです。それがすごく成功しているというのを実際に目の当たりにし、また、そういう女性たちの話を聞いたら、今、こういうのも日本、富士市でもそうですけれども、女性の起業とか就労というふうにやっていったら、ずっと長くやらないまでも、形をつくっていく中で何年、5年とか10年とか、そういう期間を持って総合的にトライをしていくということもすごく広がりが出てくるのではないのかなというふうに思いました。

そして、この起業のところですが、先ほど富士市の起業塾でも300人以上のすごい参加があり、f-Bizとタイアップしてというふうになっておりますけれども、このところで1つ聞きたいんですけれども、男女共同参画のところで女性の就労だ、起業だということをこういうふうに施策とかでうたう。実際にやるところはほかのところとももちろん連携はするんですが、例えばf-Bizであるとか商工会議所というところ、実際には男女共同参画のところは富士市の女性とか富士市の家族とかそういう人たちの課題をしっかりと把握して、それを分析してしっかりとわかっている課であると思うんです。そうした場合は、来たら、それはほかの課でやっています、それはこっちの課ですということでもどまらずに、その男女共同参画、富士市でいったらちゃんとフィランセがありますよね。そこを活用して、ちゃんとそこに就労の窓口とかというものを設けて対応していくということは考えられないでしょうか。

○議長（小長井義正 議員） 市民部長。

◎市民部長（藁科靖 君） 第3次富士市男女共同参画プランの中でも、女性の就労支援ということで項目を設けてございます。その中で就労支援のための講座等の開催、それ以外にも合同就職説明会等を関連機関と連携していきたいということで、男女共同参画課と商業労政課で共同して、そういうことは進めていくというような形での道筋を立ててございます。今後、実際に進めていく、それをフィランセで行うのか、それとも市役所のほうで行うのか、そういう特定の場所をいつでも常設にする、そこまではちょっとなかなか難しい問題だと思いますけれども、そのような就職相談の場所としてフィランセを使うことは、今後検討していきたいと思っております。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） きょうの1番のキャリアとか、次の起業の実現とか全部つながってくるんですが、根底に流れているのは男女共同参画とは何ぞや。こういうことを基礎に、どういうふう実際にやっていくのかというところになると思うんですが、ここで、例えば横浜市の男女共同参画センターには、女性に対して就労の相談であるとか事業の展開、そしていろいろと、お金のことに関しても、あるいはメンターのことに関する情報提供ということも、この3本立てでしっかりとやっているわけです。このホームページを見ますと、一言で言ってとてもわかりやすく敷居が高くない。この意味は、例えばの話、ずっと家庭に入っていて、これから私も自分の能力を生かしたい、キャリアといったときに、1歩社会とか、また仕事というと、すごくしっかりとした門構えであったり、しっかりと対応のときに、自分がどきどきして実際には窓口に行くのも敷居が高いと思ってしまう人もいますよね。それは実際に、今、図書館のところの産業支援センターにも行くのがちょっと私は怖いと思うぐらい社会に出ていない人もいます。

ですが、横浜市の男女共同参画センターの内容を見ますと、女性のしごと相談メニュー、女性起業UPルーム、わたしのおしごとHAPPYナビ、それにプラス人生相談とか子育てとか、そういうものが盛り込まれてあるんですね。これを見るとすごく取っつきやすいし、行きやすい。それに、今、窓口はどこにするかわからないという話でしたが、ぜひ横浜市の男女共同参画センターとか先進的にどんどん取り組んでいるところに1度行って見ていただきたいと思います。ここはもちろん80年代から女性の就労のことはやっているけれども、その時代の要請にあった内容にどんどん対応してやっていきますということです。それは80年代にしてみれば、ぱっと見たら、この起業という言葉はありませんよね。そうしますと、横浜では横浜に住んでいる市民がどんなニーズを持って、どういうことが必要でやるのかということで形になっていったわけです。富士市でも事業所などにアンケートをとったり、女性でもアンケートをとってみると、ある程度子どもが大きくなったらやりたいという意欲の人も多いし、起業セミナーをやればすごく大勢来るといったときに、それをちょっと整理整頓をし、男女共同参画センター、フィランセが拠点となれるようになっていただければと思います。

その続きにつながる新たな経済機会の創出というところになるんですが、先ほどフィランセのほうではいろいろと市民の活動とかで情報コーナーを設けてやっておりましてところに、この就労に関してのネットワークをつくる拠点として、その情報コーナーが活用できないかということですけれども、そこのところ済みません、もう1度、聞かせていただけますか。

○議長（小長井義正 議員） 市民部長。

◎市民部長（藁科靖 君） 富士市におきましては、フィランセ内に男女共同参画センターを設置して、女性のための相談を実施しており、実際には今2名の職員がそちらへと勤務しております。それらの中に情報コーナーがございますので、そちらのほうへも就労の情報といいますか、女性が働きやすい、協力していただいている企業のPRだとかそういうものを出したりとかすることが現時点では可能だとは思っています。

現在2名の職員が対応しておりますので、いろいろな情報提供についても今後スキルアップを図りながら、その場でもそういうような情報、そこで就職をあっせんするということはもちろんできませんので、そちらのほうで、こちらへ行けばこういうことがわかりますという案内がきちんとできるようなセンターにまずはしていきたいと考えております。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） このところで、今言われましたように、男女共同参画の市民団体の情報交換やそういうコーナーを設け、あと女性の相談で2名いるということでしたが、ここで思い切って、この仕事ですよね。ちゃんと仕事に関して、話もしっかりと聞ける人材をぽんとその情報コーナーに置いて、図書室とかその隣にもいろいろと部屋はありますけれども、そこをもう少し明るい感じに活性化していったらいいと思うんですが、それについてはどうでしょうか。

○議長（小長井義正 議員） 市民部長。

◎市民部長（藁科靖 君） 先ほど、議員が例に出されました横浜市ですけれども、横浜市は男女共同参画センター、財団法人として横浜市の男女共同参画推進協会というところで本当に大規模に運営されております。そちらには喫茶コーナーがあって、実際に起業する人がそこで喫茶店を開いて試しができるような施設にもなっているというふうなことも伺っております。現在、フィランセの西館の3階部分にございますけれども、今後、男女共同参画センターが拠点としてどのような形での機能がふさわしいかについては、もう少しいろいろと研究させていただきたいと思っております。

○議長（小長井義正 議員） 8番山下議員。

◆8番（山下いづみ 議員） そういうことで、いろいろと前向きに考えているというふうにはわかります。ですが、これからの時代は何なのかと言ったときに、市民活動のネットワークからちゃんとしっかりと仕事につながるネットワーク、こういうことをやっていく。では、それにはどうなのかといったら、この男女共同参画センターというところが十分に活用できるというふうに思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

そして、次の4点目ですけれども、子どもと家族の総合支援コーナーの設置に関しても、女性にいろいろとお話を聞くと仕事の話、自分のキャリアの話、それには必ず家庭と仕事は別のものではないですよね。家庭も仕事も自分個人もそれはすべて含めて、生活スタイル、ライフスタイルをどういうふうによりよくしていくか、こういふふうで考えてやっていくわけですね。そうすると、これは市単位ではないんですが、県単位ですと、男女共同参画と隣が子どもと家族のセンターというふうで共同で併設されてつながっているところが多いですよね。それは女性にとつたらすごく安心だし、必要な情報であるとか聞いてほしいものが両方備わっていると感ずるわけですね。このところでは、他市の状況とかいろいろな多様性もということ、これから収集して考えてやっていくということでしたので、フィランセのほうも子育て支援とか福祉相談とか、そういうのもそれぞれ備えていますよね。それに、では、子どもといつても赤ちゃんだけでもないし、思春期の子もいるし、もう少し大きくなつた子どももいるしということ、それを総合的にとらえたコーナーということもぜひ考えていつていただきたいというふうで思ひます。

以上で終わりにします。